

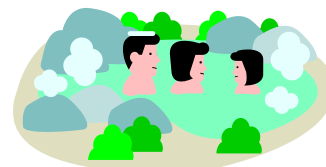
レジオネラ属菌汚染状況調査事業に係る検査

岐阜県では、レジオネラ症対策のため、県内の公衆浴場や旅館等の入浴施設のレジオネラ属菌汚染状況調査を実施しています。

■調査事業の概要

保健所が入浴施設の衛生管理状況を確認するとともに、浴槽水等のレジオネラ属菌検査を実施しています。

保健環境研究所では、保健所の検査で浴槽水等からレジオネラ属菌が検出された場合に、菌種及び血清群の同定検査を実施しています。



レジオネラ症・レジオネラ属菌とは？

レジオネラ症は、レジオネラ属菌の感染によって起こる発熱、肺炎を主徴とする病気です。レジオネラ属菌は、もともと土、河川などの自然界に生息する細菌ですが、入浴施設の循環式浴槽や、ビルの屋上に立つ冷却塔などの人工的な環境水中で増殖しやすいため、適切な衛生管理がされていないと、これらの施設が人への感染源となることがあります。人への感染は、レジオネラ属菌を含んだ細かい水しぶき（エアロゾル）を吸い込むことによって起こります。

レジオネラ属菌には約 60 種類の菌種がありますが、レジオネラ症はレジオネラ・ニューモフィラによることが多いとされています。保健環境研究所では、この菌種や血清群を同定する検査を行っています。



レジオネラ属菌

■平成 28 年度 レジオネラ属菌汚染状況調査結果

浴槽水 74 検体について検査を実施したところ、21 検体からレジオネラ属菌が検出されました。またシャワー水 26 検体については、8 検体からレジオネラ属菌が検出されました。このうち 198 株について同定検査を行いました。検出頻度が高かった菌種および血清群は下記のとおりです。

検体種別	検体数	レジオネラ属菌 検出検体数（検出率%）	主な菌種・血清群
浴槽水	74	21 (28.4)	<i>Legionella pneumophila</i> 血清群 6 (9 検体) 血清群 1 (8 検体) 血清群 9 (5 検体)
シャワー水	26	8 (30.8)	<i>Legionella pneumophila</i> 血清群 6 (3 検体)

毎年約 100 検体の検査を実施していますが、レジオネラ属菌検出率は 28%前後で推移しています。シャワー水についてもレジオネラ属菌が検出されており、感染のリスクがあることが明らかになりました。今後も調査を継続し、県内の浴槽水等の汚染状況を把握するとともに、入浴施設等の管理状況を改善していくことが大切です。